時使い戦記～学園と時を巡る物語～

桜花 未来

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時使い戦記〜学園と時を巡る物語〜

【Nコード】

N3986X

【作者名】

桜花 未来

【あらすじ】

時の力……それは何らかの切っ掛けで生まれる謎の力。時の力を持つ者は、時の波紋で未来と今と過去を繋ぐ事が出来る。時間を越える事の出来る時の波紋を廻る戦いが今、始まる……

登場人物（前書き）

この物語は学園＋ファンタジー＋恋愛要素が入っています。

登場人物

・水野 みずの 恋姫 れんぎ

夜桜星学園中等部の1年生。争いや喧嘩を好まない。生まれつき時の力を持っている。

・笹峰 ささみね 周人 しゅうてい

夜桜星学園中等部の1年生。無口で必要な事以外話さない。生まれつき時の力を持っている。

・笹峰 ささみね 芽衣 めい

夜桜星学園初等部の5年生。周人の妹。周人を兄としてでは無く、男の子として見ている。

時の力はないが、時の波紋の場所を探し出す事が出来る。

・先野 さきの 星香 ほしか

夜桜星学園中等部の1年生。恋姫の親友。周人の事が好き。5歳の時、海で溺れた所を時の力の持ち主に助けられ時の力を授かった。

・高波 たかなみ 大樹 だいき

夜桜星学園中等部の2年生。生徒会の書記係。

咲菜から時の力を授かった。

・園川 そのかわ 咲菜 さきな

夜桜星学園中等部の3先生、生徒会長。時の力を授けることが出来る。

・中島 なかじま 紗由里 さゆり

夜桜星学園中等部の1 - 1担任。時の波紋の存在を知っている？

・ 齊藤 清也

夜桜星学園中等部の1 - 2担任。

時の波紋の存在は知っているが、力が有るのかは不明。

変更、追加の可能性有り。

世界観（前書き）

この物語は学園＋ファンタジー＋恋愛要素が入っています。

世界観

・夜桜星学園よおうせいがくえん

恋姫達が通う寮制の広い学園。初等部から高等部まで。規則は全く厳しくない、自由な学園。

・時計塔とけいとう

夜桜星学園の中央に設置してある。屋上は展望台になっている。複雑な構造で時の力に反応して開く道があり、道なりに進むと時計封儀がある部屋に辿り着く。

・時の波紋

時の力を持つ者を未来や過去に飛ばす力を持つ。普段は見えないが、特殊な時使いには見える。

・時の力

時の波紋から生まれた謎の力。何かの切っ掛けで人の中に入りこんだり、生まれたりする。

・時使い

時の力を持つ者の事。特殊な力を持つ時使いもいる。優秀な時使いは、物の時間を進めたり、戻したり出来る。

・時封儀ときふうぎ

夜桜星学園の時計塔にある時の波紋の分身。時間を創った神が宿っていると言われる。

変更、追加の可能性有り。

第1話 黒い石(前書き)

この物語は学園+ファンタジー+恋愛要素が入っています。

1-1話 学園50% ファンタジー30% 恋愛20%

第1話 黒い石

ヒュウウウウ……

春の夜空に浮かぶ2つの人影。寒い風が頬に当たる。

「ここから全てが始まるのね……」

女性の声が夜空に響く。天に向けて伸びている天体望遠鏡から顔を離し、下を見る。

「ああ。我等の夢が現実になる舞台……」

ヒュウウウウウ……

女性の首に巻かれていたマフラーが飛ぶ。

「その舞台は……ここ夜桜星学園……」

「私のクラスは……2組か」

恋姫がつま先立ちで掲示板を見ている。

「私は1組。違うクラスだね……」

恋姫の親友、星香がため息混じりに呟く。本当にかっかりしている様だ。

「来年は同じクラスになれるといいね」

「そうだね。来年も違うクラスだったら落ち込むー」

恋姫と星香の周りには、沢山の人がいる。というより、掲示板の周りに人が集まっている。

ここにいるのは全員中学1年生。4月6日の朝は、どの学年も掲示板の周りに集まっているだろう。

全員、自分のクラスを確かめに来たのだ。

夜桜星学園は、敷地こそ広いが生徒が少なく、多くても2クラスしかない。

恋姫の瞳に、ある1人の男子が映った。

「あ、周人！ 何組だった？」

周人の周りにいるのは、男子ではなく女子だった。沢山の紙を手に

持っている。

ひく人も多いだろうが、恋姫はすっかり見慣れていた。

「……2組……」

「……って事は同じクラスか……」

（相変わらず周人はモテてるな！ 去年もラブレター貰ってた気がする）

周人は無口で必要な事しか喋らないが、顔も成績も運動も良いため、女子にモテまくっている。

恋姫と周人が話している間、周りにいる女子は恋姫をじっと見ていた。

周人と1番仲が良いのは、（男子を入れても）恐らく恋姫だろう。

恨めしそうな顔をしている人や、羨ましいと思っている女子もいる。

「中学1年生の皆さん、ちゅうもーく！」

1人の女性の声に、皆が反応する。声の主は、中等部の教師の服を着ていた。

「1年生の皆さんは、初等寮から中等寮に変わります。

なので、初等寮にある荷物を中等寮に運んで下さい」

女教師がそう言うと、「えー」「めんどー」という声が飛んで来た。

「めんどくさくてもやって下さい。男子はあの先生に、女子は私に寮鍵を貰いに来て下さい。」

寮鍵の番号が自分の部屋というのは解ってるわよね。寮パーティナ
ーになりたい人と一緒に来てね」

「ふう……やっと自由時間。腕が疲れた」

今は午後3時27分。恋姫と星香は中庭のベンチに座って休憩中。

「明日から本当のがっ……」

「恋姫、星香、久しぶり！」

恋姫の言葉を遮ったのは、肩より少し長い髪の少女。その少女は、周人の妹芽衣。周人と一緒にいる。

「確か1か月ぶり……芽衣、その袋は？」

芽衣は右手に何かが入った袋を持っている。

「あ、これ？ クッキー焼いてみたの。周人と一緒に食べようと思
つて……」

「……一緒に食べるか？」

「で、でも……芽衣ちゃんと食べるんじゃない……」

星香が顔を少し赤くさせながら尋ねる。

（星香……あれじゃ周人が好きってばれればだよ。でも周人はこう
いうのだけ鈍感なんだよね）

「まあ確かに周人と食べるところだったけど……今度でいつか！ 伝
えたい事もあったし」

「伝えたい事？」

3人が不思議な顔をする。

「とりあえず、憩いの場に行こう」

憩いの場は、中庭に4か所ある人気の場所。イスとテーブルがあり、
女子が良くお茶会を開く。

1行は、憩いの場へ向かった。

「あ、あつた。これこれ」

芽衣の手の平には、小さな黒い石があつた。少し光っている。

「触ってみて」

恋姫が恐る恐る触れてみると、黒く光り輝いた。が、数秒で元の輝
きに戻った。

「初等部の図書室で見つけたの。」

中から時の力を感じたから、時使いが触れると異変が起こるんじ
やないかって思ってた」

ここにいる4人は全員時使い。時使いとは……世界観を見てほしい。
しかし、芽衣は「特殊な」時使いだ。時の力は無いが、時の波紋を
探し出せる。

芽衣が触れても異変が起こらなかったのは、時の力が無いからだろ
う。

「……指紋にも関係がある……」

周人の言葉に、恋姫ははつとした。

「そういえば……私が触れた時、紋が見えた。今思えば、あれは指紋かも。いや、絶対に」

「じゃあ何で、そんな複雑な物が……？」

星香の問いに、誰も答える事は出来なかった。長い沈黙が訪れた。

その時、誰かが4人の方に近づいて来た。

「貴方は」

「何を話していらっしやるの？」

第1話 黒い石（後書き）

更新のペースが遅い……

あ、こんばんわ。それともこんにちは？

第1話ですわー

最初の8行の意味ですが、後々解って来ます^^

ちなみに「4月6日の朝は（以下省略）」という文がありますよね？

なぜ4月6日かというと、夜桜星学園の1学期初日は4月6日なのです。

入学式もありません。

おまけ、初等寮と中等寮は繋がっています。

最後の謎の人物の正体は、次回を見て下さい！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3986x/>

時使い戦記～学園と時を巡る物語～

2011年11月16日11時41分発行